# 普及・教育・研究活動報告（2014 年度）

## １．2014 年度（平成 26）の普及活動

### １）展示・情報公開

#### ａ．埋蔵文化財調査部門サテライト館の公開

埋蔵文化財調査部門では、総合博物館サテライト館のひとつとして展示室を整備し、構内遺跡で出土した資料を中心に展示公開を行っている（開館日：月曜日～金曜日　祝日および 12 月 29 日～１月４日を除く　開館時間：10 時～ 17 時）。2014 年度の来館者は 673 名（前年比 1.06）であった（2007 年５月のリニューアルオープンからの延べ来館者 4,543 名）。１年を通してみると、５月は教養教育の広大生 92 名、７月は東広島市との共催で実施している「親と子の体験歴史村」78 名、10 月は学芸員課程の実習 47 名、11 月は大学祭で実施した勾玉づくりのワークショップ 126 名と多数の来館があり、その他、団体見学としては、山陽女学園（９月:27 名）、大田高校（10 月:29 名）、福山市の地域を紐解く歴史教室（2015 年３月：22 名）、福山市網引学区の歴史研修旅行（３月：28 名）の受け入れをおこなった。

今年度は、展示室をより広く周知し、足を運びやすくするために、開館中であることを示すのぼり旗を製作した。展示室の場所と開館していることがわかるように、開館時間には建物隅と入り口に各１本設置した。また、ワークショップなどのイベントの際に使用する「ワークショップやってます」のぼり旗も製作した（写真 104）。また、展示資料に近世･近代コーナーを新設した。さらに、展示室内や廊下に椅子を置き、ゆっくり滞在してもらえるように工夫し、実際に出土資料を触わることができる「触ってみようコーナー」、「図書閲覧コーナー」を設置して充実を図った（写真 105 ～ 107）。

また、展示ケースの増設もおこなった。これまで展示室には、幅 180cm ×高 185cm ×奥行 60cm の大型３段ガラスケース２台、幅 150cm ×高 90cm ×奥行 60cm の小型２段ガラスケース４台（うち１台は１段にして使用）の計６台を常設展示に使用していたが、この度大型の３段ガラスケースを１台導入した。また、年度末の３月に文書館より幅 120cm ×高 150cm ×奥行 45cm の３段ガラスケースを３台譲り受けた。大型ケース１台と小型ケース１台は、ふむふむギャラリーやミニ企画展などのイベントでの使用を目的として展示室に配置した。残りの小型ケース２台は、作業整理室の入り口に配置した。次年度以降、具体的な活用を進める計画である。

**写真 104**　のぼり旗

**写真 105**　展示室に設置した椅子

**写真 106**　新設コーナー（触ってみよう）

**写真 107**　新設コーナー（図書）

**b．ミニ企画展「霞地区で発掘された大学食器」（2014 年 10 月 10 日～ 12 月 19 日）**

広島大学病院や医学部などがある霞地区（霞キャンパス）においては、近年の立会・試掘調査で近代・現代の遺物が多数出土している。今回、これらの資料について知ってもらう機会として、「広大病院」と銘のある磁製食器類を中心とした展示を、東広島地区（東広島キャンパス）にある展示室で実施した（写真 108）。

展示資料は、昭和 30 年代まで大学の食堂などで使用されていた碗や皿、小鉢などであり、現在の広大病院で使用されているメラミン食器類や「広島大学」銘のあるコーヒーカップや皿なども、現在の大学食器として合わせて展示した（写真 109）。また、霞地区においては、太平洋戦争時の物資不足の折に缶詰の役割を果たした陶製の防衛食容器も複数出土しており、それらについても一緒に展示した。さらに、広島市内では霞地区以外でも調査が進められており、附属小中学校がある翠地区においては、戦時中に陸軍が使用していた軍用食器が多数出土している。これらについても同一企画

展のなかで展示して紹介した。展示には、それまでに中世・近世の資料を常設展示していた大型ケース１台を使用した。

また、出土資料だけでなく、展示室前の廊下では霞地区の歴史や煉瓦組みの建物基礎や石組桝など､調査時に検出された遺構の写真を掲示して調査の様子を紹介した（写真 110・111）。本展示は中国新聞でも紹介され、広大キャンパスから出土する特徴的な資料のひとつについて知ってもらう良い機会となった（写真 112）。

今後も常設展示にとどまることなく、これまで紹介しきれていない調査部門所蔵の資料や周辺地域の歴史や文化、最新の考古学研究など、テーマを設定して展示を実施し情報を発信していく計画である。

**写真 108**　ミニ企画展ちらし

**写真 109**　ミニ企画展展示資料

**写真 110**　ミニ企画展パネル(1)

**写真 111**　ミニ企画展パネル(2)

**写真 112**　ミニ企画展中国新聞掲載記事

### ｃ．第４回ふむふむギャラリー 「霞地区で発掘された大学食器 in 霞キャンパス」（2015 年１月 20 日～３月 20 日）

前述のミニ企画展と同じ資料を用いて、資料が出土した地である霞地区の医学資料館において、2015 年１月 20 日から３月 20 日に展示を実施した（写真 113 ～ 115）。期間中は２度の展示解説を行った（写真 116）。パネルで紹介している石組桝や排水路は、医学資料館北側の立体駐車場建設に伴う調査において発見されたものであり、駐車場の裏手に一部を移設して整備し、看板も設置して自由に見学することができるため、案内のチラシをおいて見学を促した（写真 117）。

本展示開催のお知らせと出土資料については、中国新聞および『広島大学病院ニュース』No. 35 において紹介された（写真 118・119）。これらの周知の効果もあったのか、２ヶ月間で 463 名（埋蔵文化財調査部門展示室来館者数には含まず）の来館者があった。医学資料館は通院患者やお見舞いや付添の方々、広大生、広島市内の地域住民など、広島市内在住の人々に埋蔵文化財資料を見てもらえる良い企画であったと考えられる。今後も医学資料館などと協力し、広島市内に出向いた興味深い展示は有効であろう。

**写真 113**　第４回ふむふむギャラリーちらし

**写真 114**　展示の様子（展示資料）

**写真 115**　展示の様子（パネル）

**写真 116**　展示解説の様子

写真 117　移設遺構案内図

写真 118　霞地区展示中国新聞掲載記事

写真 119　広島大学病院ニュース No. 35 記事

### d．Facebook 開設・ホームページ更新

調査部門での業務報告やイベント紹介などの情報を敏速に発信するため、2014 年 7 月より Facebook の運用を開始した。ホームページについては、構成員の変更や Facebook 開設の通知、イベント紹介などを更新した。

### ｅ．刊行物

『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第６号（2015 年３月刊行）

研究編に研究論文３稿、調査編には「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2011 年度）」、付編には「普及・研究活動（2011 年度）」と「埋蔵文化財調査室の組織」が、また 2011 年５月に総合博物館と合併したことに伴い「総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織」が収められている。研究編は以下のとおりである。

研究１：永田千織・藤野次史「安芸地方における土師質土器坏・皿類の研究（下）」

研究２：石丸恵利子・大近美穂・西口祐子「広島大学霞キャンパス出土の「広大病院」食器」

研究３：藤野次史「東広島市丸山神社古墳群の測量報告」

『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－鴻の巣遺跡（第４次）の調査－』（2014 年 12 月刊行）

鴻の巣遺跡保存区における歩道設置工事に伴い 2011 年４月から７月に実施された鴻の巣遺跡の発掘調査の成果報告である。旧石器時代から古墳時代の遺物が出土し、縄文時代の土坑や炉跡などの遺構が検出されており、それらの内容を記録している。

**写真 120**　紀要第６号表紙

**写真 121**　報告書Ⅵ表紙

## ２）調査資料および遺跡の整備

### ａ．霞地区石組桝および排水路の移設復元（2014 年６月４日～７日）

2013 年度に実施された薬学部西側立体駐車場新営工事に伴う試掘・立会調査において、石組桝と石組排水路が検出された。広島陸軍兵器支廠官舎の建設に伴って設置された構築物だと考えられ、当時の歴史や技術を知るうえで重要な埋蔵文化財であることから、広く公開することを目的として、移設保存をおこなった。立体駐車場竣工後、調査時に取り上げて保管しておいた石材を組み直し、建物北側に常時見学ができる状態で展示した（写真 122・123）。

石組桝は、花崗岩の切り石を１辺として四角に組んだもので、取り上げ時の図面や写真をもとに、主要な石材をもとの形に組み直した。本来は地下に構築されたものを地上で組み立てたため、石の支えとしてコンクリートブロックを使用し、石の隙間にはモルタルを詰めて固定した。桝内部には、西側と北側の側面に土管の端が見えるように配置し、北側から流れ込んだ水が西側に出ていく構造を復元した。ただし、土管は再利用できなかったため新しく製作したものを利用した。また、桝が地下に埋まっている状態であったことを示すため、周辺はブロックを積み上げて箱状にし、その中に真砂土を詰めて上面を整形して仕上げた（写真 124 ～ 134）。調査において発見された時は、桝にはコンクリートの蓋がはめられていたが、展示では桝の中の状態が見えるように蓋は設置しなかった。

石組排水溝は、長さ 1.1 ｍと 1.4 ｍの切り石を使用して検出された排水溝の一部を復元した。桝同様に周りにブロックを並べて箱状にし、内部に真砂土を詰め、上部表面および箱状の外枠表面はモルタルで整形した（写真 135 ～ 140）。

**写真 122**　移設展示完成後の様子

広大病院ニュース No.34 2014.10

かすみ版原スポット

石組みの枡と水路

2014年2月に完成したP1立体駐車場1階の北東角に復元保存されています。建設工事に先立って実施された発掘調査で見つかりました。枡は1.1m四方、深さ0.5m。枡と枡をつなぐ構造の水路は幅0.2 m(内寸)、深さ0.2 m。いずれも花崗岩製です。現在の広島大学霞キャンパスには戦前、広島陸軍兵器支廠の兵器庫が建ち並んでいました。石組みの枡と水路は大正後期から昭和初期にかけて利用された兵器庫の関連設備と考えられます。

**写真 123**　病院ニュースNo. 34 掲載記事

**写真 124**　桝・排水路の石材

**写真 125**　桝移設作業状況（1）

**写真 126**　桝移設作業状況（2）

**写真 127**　桝移設作業状況（3）

**写真 128**　桝移設作業状況（4）

**写真 129**　桝移設作業状況（5）

**写真 130**　桝移設作業状況（6）

**写真 131**　桝移設作業状況（7）

**写真 132**　桝移設作業状況（8）

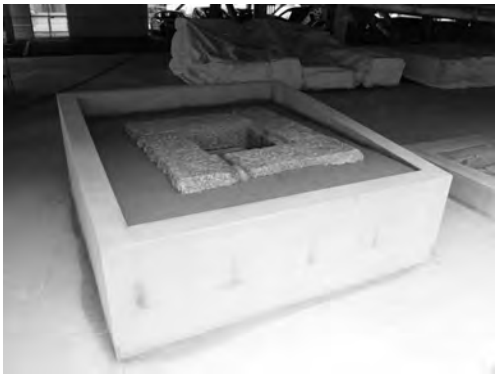

**写真 133**　桝移設完了後の様子

**写真 134**　桝内部の様子

**写真 135**　排水路移設作業状況（1）

**写真 136**　排水路移設作業状況（2）

**写真 137**　排水路移設作業状況（3）

**写真 138**　排水路移設作業状況（4）

**写真 139**　排水路移設完了後の様子

**写真 140**　排水路内部の様子

### ｂ．山中池南遺跡第２地点のティフブレア植え付け（2014 年７月９日）

東広島地区にある保存区のひとつである山中池南遺跡第２地点は、定期的に草刈りをしてイベントなどで見学コースに組み込んで利活用している。雨水や風化によって時間とともに土壌の流出が目立ってきており、これ以上の流出で地下の遺構や遺物が失われるのを防ぐため、この度、法面保護のための芝張りを実施した。

植え付けの品種はティフブレアを選定した。もっとも一般的な芝としては野芝や高麗芝であるが、ティフブレアは耐寒性が強く、草刈も軽減されること、他の雑草の発生や侵入を抑制するとされることなどから、近年芝草として注目されている。植え付けの方法としては種をそのまま吹き付ける方法やピット苗を植える方法など複数あるが、本整備では１本が幅１ｍ×長 20 ｍのパルプ紙にわらを敷き詰めたものに種を含ませたシート（わらシート）を用いた。シートは目串を使って固定し、15 本の計 300 ㎡の植え付けを行った（写真 141 ～ 144）。パルプ紙は降雨などによって後に溶けてなくなり、わらも生育によいことから環境にやさしいとされる。

**写真 141**　ティフブレア敷設作業状況（1）

**写真 142**　ティフブレア敷設作業状況（2）

**写真 143**　ティフブレア敷設作業状況（3）

**写真 144**　ティフブレア敷設完了後の様子

### ｃ．山中池南遺跡第２地点の１号・２号住居跡修復（10 月 14 日～ 17 日・20 日）

山中池南遺跡第２地点では、古墳時代後期の住居跡２基（１号住居跡・２号住居跡）の検出状況を盛土の直上に復元整備している。それらの住居壁面はひび割れや剥離などの劣化が目立ってきたため、補修工事を行った。

１号住居では、北側の現壁面構築材を取り除き、中の鉄骨を組み直し、真砂土に土壌改良剤（ベントナイト）とセメントを１：２で配合したものを混ぜ込み、壁面と竈周辺の床面を再構築した（写真 145 ～ 155）。２号住居においても、同様に北側壁面の再構築をおこなった（写真 156 ～ 164）。同じく２号住居内に上面をアクリル板で覆って復元展示している鍛冶炉についても、木炭を敷きなおして修復した（写真 165・166）。

**写真 145**　１号住居修復作業状況（1）

**写真 146**　１号住居修復作業状況（2）

**写真 147**　１号住居修復作業状況（3）

**写真 148**　１号住居修復作業状況（4）

**写真 149**　1 号住居修復作業状況（5）

**写真 150**　1 号住居修復作業状況（6）

**写真 151**　1 号住居修復作業状況（7）

**写真 152**　1 号住居修復作業状況（8）

**写真 153**　1 号住居修復作業状況（9）

**写真 154**　1 号住居修復完了後の様子（1）

**写真 155**　１号住居修復完了後の様子（2）

**写真 156**　２号住居修復作業状況（1）

**写真 157**　２号住居修復作業状況（2）

**写真 158**　２号住居修復作業状況（3）

**写真 159**　２号住居修復作業状況（4）

**写真 160**　２号住居修復作業状況（5）

**写真 161**　２号住居修復作業状況（6）

**写真 162**　２号住居修復作業状況（7）

**写真 163**　２号住居修復作業状況（8）

**写真 164**　２号住居修復完了後の様子

**写真 165**　鍛冶炉修復作業状況（1）

**写真 166**　鍛冶炉修復作業状況（2）

### ｄ．鴻の巣南遺跡復元竪穴住居周堤への土補充（2014 年 10 月 20 日）

東広島地区にある鴻の巣南遺跡では、弥生時代後期の住居跡が検出され、垂木跡が確認できた貴重な遺構であるため、住居の上屋を復元して屋外展示している。住居床面や柱などに加え、周堤も一部分のみ盛り土をして住居内側壁に矢板を添えた状態に表現している。その盛り土が自重で少しずつ沈んだため、かさ増しをおこなった。現在の盛土の上に、真砂土を矢板上端の高さまで盛って押し固めた。（写真 167 ～ 170）

**写真 167**　竪穴住居周堤への盛土作業状況(1)

**写真 168**　竪穴住居周堤への盛土作業状況(2)

**写真 169**　竪穴住居周堤への盛土作業状況(3)

**写真 170**　竪穴住居周堤への盛土後の様子

### ｅ．石組桝および排水路の看板設置（2014 年 12 月 27 日）

霞地区で立体駐車場裏に移設保存した石組桝と石組排水路ならびに調査の概要を記した説明板を設置した。本駐車場の場所で行われた調査の説明板は駐車場の正面入り口に設置し、石組桝の場所を示した地図も合わせて掲載した。展示の場所では、それぞれの遺構の説明板をフェンス前に設置した。駐車場入り口から展示までの途中には方向を示す矢印を 1 か所設置した。（写真 171 ～ 176）

**写真 171**　説明板設置作業状況（1）

**写真 172**　説明板設置作業状況（2）

**写真 173**　説明板設置作業状況（3）

**写真 174**　説明板設置作業状況（4）

**写真 175**　説明板設置完了後の様子（1）

**写真 176**　説明板設置完了後の様子（2）

### ｆ．山中池南遺跡第２地点の説明板改訂（2015 年３月 26 日）

山中池南遺跡第２地点では、４か所に本遺跡の説明板が設置してある。その後、表面の劣化による変色や亀裂が入っていたことや、「用語が難しくわかりにくい」との指摘も受けていたため、より一般的に読みやすい説明文に改訂して、既設看板の貼り替えを行った。道路から遺跡への入口にあたる遺跡全体の説明板には、現在地と総合博物館本館および埋蔵文化財調査部門の展示室の場所がわかるよう地図を加えた。また、名称が埋蔵文化財調査室となっていたものについては、埋蔵文化財調査部門に改めた。（写真 177 ～ 180）

**写真 177**　看板改修作業状況（1）

**写真 178**　看板改修作業状況（2）

**写真 179**　看板改修作業状況（3）

**写真 180**　看板改修作業状況（4）

### ｇ．鴻の巣南遺跡の説明板新設および改訂（2015 年３月 26 日）

鴻の巣南遺跡では、遺跡の説明板１か所と住居跡の上屋構造を復元しているが、両者の場所がやや離れていることと、後者の復元住居について解説する説明板がなく展示活用が不十分であったため、説明板を新設した。また、既設の説明板も表面が劣化していたため、内容もよりわかりやすく改訂して貼り替えを行った。（写真 181 ～ 184）

**写真 181**　看板設置作業状況（1）

**写真 182**　看板設置作業状況（2）

**写真 183**　看板設置作業状況（3）

**写真 184**　看板設置完了後の様子

### ３）遺跡・遺物の整理・管理・活用

#### ａ．遺物の整理

これまでの発掘・試掘・立会調査において、多くの遺物が出土しているが、未整理のものや未報告の資料が存在する。実測図やトレース図などの調査図面や写真などにも、記録情報が欠如しているものや未整理のものがあり、それらの整理を継続して実施している。

本年度の遺物整理としては、山中池南遺跡第１地点、同第２地点、同第６地点の報告資料の管理台帳作成および報告資料の照合、霞地区と翠地区出土の統制食器や軍用食器などの近代資料の接合、病院食器の接合および実測作業を行った。図面整理は、報告書Ⅱ（西ががら遺跡第１地点・同第２地点）に掲載した図面の整理を行った。

#### ｂ．親と子の体験歴史村（2014 年７月 26 日）

東広島市との共催事業として、「第 31 回親と子の体験歴史村」を開催した（写真 185）。本事業は東広島市が主催として実施してきたもので、2008 年度から共催となり、７回目にあたる。夏休み期間中に東広島市内の小学生（４・５・６年生）とその親を対象として、むかしのものづくりや生活を体験してもらうもので、埋蔵文化財調査部門展示室南の芝生スペースを主たる会場として開催している。本年度は、76 名（スタッフ以外）の参加があった。

午前中は、鴻の巣南遺跡の復元住居の見学、埋蔵文化財調査部門展示室および整理室見学、土器づくりを行った。午後は、火おこし、総合博物館本館見学、勾玉づくりを行った（写真 186 ～ 192）。昼休憩中には、土器の接合体験や鏡（レプリカ）パズルができるコーナーを設置して対応した（写真 193）。また、展示室の資料にかかわるクイズを作成し、回答者には埋文スタッフが作成した埴輪のマグネットを記念品とした。土器は東広島市が依頼する窯で焼き上げ、約１か月後に各参加者に渡している。

**写真 185**　親と子の体験歴史村パンフレット

**写真 186**　鴻の巣南遺跡見学の様子

**写真 187**　展示室見学の様子

**写真 188**　整理室見学の様子

**写真 189**　土器作り体験

**写真 190**　火おこし体験

**写真 191**　本館展示室見学の様子

**写真 192**　勾玉作り体験

**写真 193**　土器の接合体験

### c．大学祭におけるワークショップ「勾玉づくり」（2014 年 11 月２日）

2014 年度の広島大学大学祭は、11 月１日・２日に開催されたが、２日に勾玉づくりのワークショップを行った。５回に分けて入れ替え制で実施したが、計 125 名の参加者があり、大変好評であった。ミニ企画展「霞地区で発掘された大学食器」も開催期間中であったため、展示室も開館して対応した。（写真 194 ～ 197）

**写真 194**　大学祭パンフレット

**写真 195**　ワークショップ用のぼり旗

**写真 196**　勾玉作りの様子（1）

**写真 197**　勾玉作りの様子（2）

### d．遺跡保存区の草刈り（2015 年２月 16 日～ 27 日）

毎年、東広島地区の保存区では草刈りをして管理している。今年度は、東広島市シルバー人材センターに依頼して、鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第１地点、山中池南遺跡第２地点の草刈りを実施した。

### ｅ．第 46 回フィールドナビ「キャンパスで考古学な散歩ツアー」（2015 年３月 28 日）

大学構内の遺跡や地域の埋蔵文化財ならびに大学の自然環境について、子供から大人までの一般市民に理解を深めてもらうため、キャンパスの自然を楽しみながら遺跡を巡るイベントを実施した（写真 198）。埋蔵文化財調査部門をスタートし、鴻の巣南遺跡（縄文・弥生時代）の復元竪穴住居（弥生時代後期）、発見の小径（遊歩道）、山中池南遺跡第１地点（縄文・弥生・古墳・中世）、山中池南遺跡第２地点（旧石器～古墳時代・中世）、ゴールとして博物館本館までを約２時間で散策した（写真 199 ～ 203）。

キャンパス内では多くの遺跡が発見されているが、これまで遺跡の存在を知らなかった参加者が多かった。この点は、保存区として整備しているにもかかわらず、十分に活用できていないことを示しており、今後の重要な課題であることを浮き彫りにした。参加者へのアンケートを行った結果、「看板の説明が小学生にはわかりにくかった」、「木陰などで見えにくいところがあった」、「歩道から見えにくい」、「もっと写真があったほうが分かりやすい」などの意見があり、まだまだ改善すべき点が多くあることを感じた。一方で、「もっと遺跡のことを知りたい」、あるいは「興味があるので体験型のイベントをもっと開催してほしい」という意見も多くいただいたことは収穫であった。今回の課題と成果を整理し、キャンパスの埋蔵文化財の保護と活用については、埋蔵文化財調査部門の責務として、今後継続して検討実行していく必要がある。

**写真 198**　フィールドナビちらし

**写真 199**　復元竪穴住居見学の様子（1）

**写真 200**　復元竪穴住居見学の様子（2）

**写真 201**　発見の小径散策の様子

**写真 202**　山中池南遺跡第２地点見学の様子（1）

**写真 203**　山中池南遺跡第２地点見学の様子(2)

### ｆ．２015 年新春キャンペーン「大学の遺跡を知ろう！歴史を学ぼう」

（2015 年３月 28 日～５月 11 日）

大学の遺跡や地域の歴史についてより理解と興味を持ってもらうため、2015 年新春キャンペーン「大学の遺跡を知ろう！歴史を学ぼう」を開催し、展示室への来館者増加に努めた。期間中は、キャンパスの遺跡や展示資料、調査で使用する道具などについてのクロスワードパズルを作成し、その答えが解けた人には埋文オリジナルのクリアファイル（２タイプ作成）を進呈する普及活動をおこなった。期間中の来館者は 65 名で、例年の同時期より多く（団体を除く）の来館者があった。今後も、継続した周知活動が必要である。（写真 204・205）

**写真 204**　新春キャンペーンちらし

**写真 205**　新春キャンペーンクロスワードパズル

### g．オリジナル頒布品の作成

親と子の体験歴史村やフィールドナビなど、キャンパスの遺跡や歴史についての教育普及に役立てるため、イベント参加の記念品としてクリアファイル、エコバック、マグネットの 3 種のオリジナル頒布品を作成した（写真 206 ～ 208）。クリアファイルの図柄には、キャンパスの植物やスタッフが作成した埴輪の写真を使用し、フィールドナビの参加者や新春キャンペーンにおけるクロスワードパズル回答者に配布した。また、エコバックには、キャンパスの遺跡から出土した遺物や遺構の写真もしくはイラストをプリントし、フィールドナビの参加者に配布した。さらに、マグネットは、レプリカの埴輪から樹脂で型を取り、オーブン粘土を使用して作成したもので、親と子の体験歴史村の参加者にクイズの景品として配布した。学生や一般市民への埋蔵文化財に対する興味付けや、展示室へのリピーターあるいは周知効果になったといえ、今後も情報発信の工夫が必要である。

**写真 206**　埋文オリジナルグッズ(マグネット)

**写真 207**　埋文オリジナルグッズ（クリアファイル）

**写真 208**　埋文オリジナルグッズ(エコバッグ)

## ２．2014 年度（平成 26）の教育活動

### １）学芸員資格取得特定プログラム

藤野次史　「博物館概論」（前期、広島大学総合博物館開設）

藤野次史・清水則夫「博物館実習２」（前期、広島大学総合博物館開設）

藤野次史　「博物館経営論」（後期、広島大学総合博物館開設）

藤野次史　「博物館資料論」（後期、広島大学総合博物館開設）、３回分を担当

藤野次史・清水則夫ほか「博物館実習１」（後期、広島大学総合博物館開設）、８回分を担当

### ２）教養教育

藤野次史　「教養科目　キャンパスの自然環境と環境管理」（前期、広島大学総合科学部開設）、２回分を分担（「東広島キャンパスの埋蔵文化財」）

## ３．2014 年度（平成 26）の個別研究活動

**≪藤野次史≫**

**（論文・資料報告）**

藤野次史「中国山地中部における後期旧石器時代前半期の編年をめぐってー島根県原田遺跡第３文化層出土の石器群を中心にー」『広島の考古学と文化財保護：松下正司先生喜寿記念論集』広島の考古学と文化財保護刊行会１ - 22 頁　2014 年 11 月

**（研究発表）**

藤野次史・岡橋秀典・清水則雄・佐藤大規「広島大学における学芸員資格取得特定プログラム新課程の実施についてーこれまでの成果と今後の課題ー」第９回博物科学会　愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール 2014 年６月 20 日：口頭発表

**（その他）**

調査指導：広島県天地遺跡・天地第１号古墳　福山市　2014 年９月 24 日

調査指導：広島県亀井城関連遺跡　大竹市　2014 年９月 24 日

調査指導：山口県中津居館遺跡　岩国市　2015 年２月 25 日

資料調査：三原市三太刀遺跡出土土師質土器坏・皿の調査　三原市　2015 年１月 27 日

≪石丸恵利子≫

（論文・資料報告）

石丸恵利子　「未来を切り開く学際的研究のあり方」『考古学研究 60 周年記念誌考古学研究の 60 の論点』 考古学研究会　159 － 160 頁　2014 年４月

石丸恵利子　「同位体分析からみた水産資源の流通」『季刊考古学』第 128 号　雄山閣　46 － 49 頁　2014 年７月

石丸恵利子・大近美穂・西口祐子　「広島大学霞キャンパス出土の「広大病院」食器」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第６号　広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門　71 － 95 頁　2015 年３月

（研究発表）

2014 年度中四国歴史学地理学協会研究大会　「動物資源利用の歴史を読み解く同位体考古学の試み」　2014 年６月８日　広島大学大学院文学研究科：口頭発表

（外部資金獲得）

基盤研究Ｃ「近世城下町の資源利用と文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」：研究代表者

（その他）

調査指導：遺跡出土獣骨の同定　徳島県埋蔵文化財センター　2014 年９月 25・26 日および 12 月 11 日～ 25 日

調査指導：動物遺存体の鑑定　香川県埋蔵文化財センター　2014 年 11 月７日

資料調査：松江城下町遺跡出土動物遺存体の調査　島根県松江市まちづくり文化財課　2014 年 11 月 27・28 日および３月 16・17 日

依頼講演：2014 年度　アワコウコ楽公開講座「四国における近世城下町の動物資源利用」徳島県立埋蔵文化財総合センター　2015 年２月 22 日

調査指導：愛媛県南宇和郡愛南町埋蔵文化財活用事業に関する意見交換　2015 年３月４・５日